

NNT2020 委員 各位

NNT 招待ご講演者 各位

NIL 研究会 運営委員各位

NIL 研究会 賛助会員各位

NNT2020 国際委員 議長 平井 義彦

論文委員長 谷口 淳

実行委員長 竹井 敏

顧問 松井 真二

NNT2020 の開催準備ならびに、NIL 研究会の運営にご尽力頂き、大変ありがとうございます。

さて、NIL 研究会が主催者となって準備を進めてまいりました国際ナノインプリント・ナノプリント会議(NNT)2020(10月7-9日 富山国際会議場)につきまして、新型コロナ禍を鑑み、国際委員会ならびに、国内の各委員長、副委員長で協議を重ねてまいりました結果、誠に残念ながら国際的な状況を鑑み、NNT2020 は中止とさせていただくことになりました。

(1). 経緯と事由

いくつかの観点から議論を重ねましたが、

1) 世界的な新型コロナ禍の終息が見通せないうえ、第二波、第三波の恐れがある。(WHO 見解)

2) 治療薬、ワクチンの開発と、十分な供給に目途が立たない。

という基本的な健康上の懸念に加えまして、

3) 研究開発が世界的に沈滞している恐れがあり、最新の研究発表が多く見込めない。

4) 海外渡航について、国、企業によっては、制約(健康面と経済面の双方)が生じる可能性がある。

のが主な理由です。

一方、最近多くみられるようになった web での開催についても、国際委員を中心に議論を重ねましたが、

5) NNT の性格上、専門に特化した会議であり、アジア・米国・欧州の研究者が一堂に会して、研究成果以外の情報交換も行えることにも意義がある。

6) ストリーミングなどでは、一方通行となり、突っ込んだ質疑が行えない恐れがある。

7) リアルタイムの双方向発表では、時差の解消が困難である。

などの事由により、国際委員会では、web 会議についても今回は見送りが妥当との意見が大半を占めました。さらに、技術的には

- 8) 動画の著作権、肖像権についての対処が困難である。
 - 9) セキュリティの問題があり、企業によっては、特定のツールしか認めない恐れがある。
 - 10) 事務管理方法を含めたシステムの構築が間に合わない。
- なども鑑み、NNT2020 においては、中止とさせていただきたいとの判断に至りました。

① 次年度の NNT について

NNT2021 につきましては、すでに欧州のグループで準備に着手している事情もあり、NNT2021 を欧州で開催するか、NNT2021 を延期して富山で開催するかにつきましては、国際委員会で継続審議となりました。日本側といたしましては、欧州での準備状況を尊重し、2022 年に日本での開催を申して出ております。

② NNT としての web 交流について

一方で、国際委員の一部から、地域ごとにフリーな web 交流会を開催し、意見集約して国際的な場で紹介してはどうかという提案が欧州の委員から出されて、こちらも継続して意見交換することとなりました。この場合、著作権や肖像権は放棄した形で、フリーに情報を交換できる方だけが参加できそうです(公開討論会形式)。

③ NNT2020 への投稿論文等について

今回、招待講演をお願い、ご快諾頂戴いたしました先生方につきましては、大変申し訳ございませんが、中止の決定にご理解いただけましたら幸いです。また、次回 NNT が日本で開催される場合には、引き続きご講演をお願いいたしたいと考えております。あるいは、欧州開催の場合には、国際委員より推薦させていただきたいと考えておりますので、重ねましてよろしく願いいたします。

一方、すでに一般投稿頂いた皆様には、次回の NNT への投稿をお願いするとともに、NNT 富山と同時期に大阪で開催が予定されています MNC2020(web によるストリーミングの可能性があると聞いております)への投稿も紹介させていただきたいと考えております。

④ これまでの経費について

会場のキャンセル料は、特例により発生いたしません。web ページの開設やチラシ等の印刷、事務費用などのこれまでに発生した費用・損失につきましては、NIL 研究会より依頼事務所に精算させていただく予定です。

以上、これまで開催に向けまして多大なご尽力を頂戴して参りましたが、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。